

「いつか越えてみせる」

北海道帯広農業高等学校
酪農科学科 1年 石田 悠太

「俺は、親父を超えるぐらいの酪農家になって有名になってみせる。」中学生の中ごろから強く思うようになりました。

自分の家は宗谷の枝幸町というとても小さな町で、人もあまり住んでいません。けれど、酪農が盛んで共進会という牛の大会では全道でも好成績を残し、全国大会にも出場している人がたくさんいます。その枝幸町の中で父は酪農を営んでおり、乳牛を養っています。現在家の総頭数は130頭近くいます。

自分は小さい頃から父に仕事を手伝うように言われ、家族みんなで一緒に仕事をしてきました。父は仕事のなかでも機械を使った仕事は、他の酪農家が見ても上手なものだそうです。自分も手伝いで機械に乗ったりするときがありましたけども「やっぱり親父ってすごいな。なんでこんな事が平気で出来るのだろう。」と何度も思うことがありました。父に「どうしたら、こんな風出来るの。」「どうしたらこうなるの。」と父に自分が思ったことを聞いたら「お前は下手くそだからな。こうやればいいんだ。」とアドバイスするだけで後は自分で考えなさいというような感じで仕事し、間違ったら何度も怒られたけれど、ちゃんとできたときには、「その感じでいいから忘れるなよ。」と言われたときは「親父ってやっぱりすごいな。」と思いました。

父は積極的に共進会という大会にも出て同じ地域から出している人の牛の毛刈りもしています。父は昔、いろいろな人から毛刈りのやり方を教わっていたと近所の人から聞き、実際に共進会の会場でも教えてもらっているのを何度もみています。自分もたまたま父と一緒に毛を刈るときにはいろいろなことを教えてくれます。

自分は小学4年生の時に近所の人に「共進会に出てみないか。」といわれたのがきっかけで始めました。自分は父と一緒に負けず嫌いな性格なので、家の仕事が終わったら近所に行き牛の調教をするというのをほぼ毎日のようにやりました。父も一緒に来ては、引っぱり方のアドバイスなど色々教えてくれました。父や近所の人たちからたくさんのアドバイスをもらいながら頑張ったおかげで、デビュー戦から全道大会に出場することができました。その時、父のほうを見たら目に涙があり、「よく頑張ったな。」と今までに一度も見ただことのない父の姿を見て自分も「一生懸命頑張ってたよ。」と思いました。他の人達は「お前は親父をもう越したな。」というけれど、自分的にはまだまだなので、複雑な気分でした。それから今まで、父と一緒に共進会に何度も出場し全道に何度も行くことができました。今までは父とかが牛を決め、大会までに牛の状態を良くし、体をつくり毛を刈って自分で引っぱりいつかは自分で牛を選んでその牛でいい結果を残した父を負かすぐらいの牛の見方をわかった人になりたいと思いました。

自分の父は正直言ってあまり知識の方はあまりありませんが、昔からの知恵とたくさんの人からの教えてもらった事を生かしてやってきました。自分の事しかあまり考えない自己中心的なところもあり、「こんな親父みたいには絶対になりたくない。」と思うことも多いですが、今年高校を決める時に父は「せっかくの高校3年間なのだから帯広の農業高校に行ってたくさんの勉強や、資格をとってこい。家のことは心配しなくていいから。」と言われたとき最初はすごく嬉しかった反面、遠く離れていて知り合いもない高校でちゃんとやっていけるか不安になりました。父は自分に「お前は俺より頭いいと思うからたくさん勉強してたくさん友達を作ってきて。」と言ってくれました。

高校生活、それは自分にとってみたら主に牛を、そして色々な動物の知識を身に付けたり学びちょっとでも父を超えるための生活なのだと自分は思います。父が言ってくれたように、せっかくの3年間、帯広にいるのだから、ここだけでしか学べないことや、牛のことなどたくさんのことを学びたいと強く思います。後、帯広の色々な農家の家に実習に行き、主に牛のことをたくさんの人達から教えてもらいたいです。

自分の夢、それは2つあります。1つ目は、父と同じように色々な人に支えられている酪農家になることです。自分は、親の後を継ごうと思っているので父同様、色々な人に支えられその酪農家の友達と情報交換などができたら今の経営より少しでも楽になると自分なりにそう思ったからです。そして2つ目の夢は、テーマにもなっている「いつか越えてみせる」ということです。これは父をいつか必ず超えるだけの酪農家になるという意味です。自分はテーマになっているように父を超えることを目標に高校で色々学び、経営するときには、高校で学んだことをいかせるように父をも超える酪農家になることが自分の夢です。自分はこの2つの夢を忘れることなく、夢に向かって高校生活を頑張っていこうと思います。

「俺、親父を必ず越えてみせる。」最初は無理かもしれないが、諦めず努力しつづけていればいつかは必ず父を超えられることを信じて頑張っていきます。これからの農家、酪農家の人達は少なくなっていくと思いますが、親の後を継ぎ親も少し楽に出来るような酪農家になれるだけの知識を高校で学び身につけられるようにしたいと思います。

自分が経営するときには、地元の枝幸町の酪農家の数はやっぱり少なくなっていると自分は思います。そのような中でも頑張っていきたいです。どのように頑張りたいのか、初めのほうに言ったように「有名になる。」ということです。父と同じように共進会などに、積極的に出て好成績を残せるようにしていきたいです。そして全道に自分の名前を知ってもらうようにして頑張っていきたいと思います。共進会は、どうしても少し面倒な所がありますがきちんとしていればそれに答えてくれるかのように牛の発育、牛の変化が見られ調教などをしていればきちんと自分にその牛がなついてくれるので面倒な面もありますが父も同じようにこのような事をしてきていたので頑張りたいと思います。

親父それは、自分にとって尊敬できる部分もあれば悪い部分もあるが一番にこの人を超えたいと自分が今強く思う存在です。これからは自分のため、家のためにたくさんのことを身につけていき頑張っていきます。

自分の中で親父を越えること、それは自分の中の最大の目標なのです。無理だからといって諦めるのではなく、いつか必ず越えることができると前を向いてこれから頑張ります。
